

第6回定例会 (9月26日)

■まちづくり懇談会

28箇所49自治会386人、3団体124人の延べ510人の参加を得たところです。まちづくりの貴重な意見を今後の町政運営に活かしていきたい。

■つべつ夏まつり

7月7日・8日の両日、好天に恵まれ大勢の人出で賑わいました。



前夜祭は、ブラスバンドやリコーダー、大正琴などによる演奏で幕を開け、千人踊り、よさこいソーランが披露されたあと、花火大会で盛り上がりを見せたところです。本祭りでは、山鳴太鼓、歌手・タレントのステージをメインとして、つべつ川のほり大会、南アルプス市(旧榎形町)の物産販売などで楽しんでいただきました。

開催運営にご協力いただきました関係者にお礼を申し上げます。

■社会を明るくする運動「ふれあい町民のつどい」

社会を明るくする運動にちなみ、7月25日に中央公民館において「ふれあい町民のつどい」を開催しました。

このつどいでは、運動標語の表彰と、教員時代の印象深い生徒とのエピソードなどを紹介した美幌町立図書館長の坂下勝明氏による講演が行われました。

■船橋市・南アルプス市との青少年交流事業

8月4日に船橋市から50人、8日には南アルプス市から43人の交流団が来町いたしました。

あいにくの天候でしたが、ホームステイ、木工体験、ゴムボートによる川下り、施設見学等を通して本町の児童生徒との友好の輪を広げ元気に帰郷されました。

■美幌・津別地域季節労働者通年雇用促進支援協議会設立

季節労働者能力開発支援助成金制度が18年度で終了し、新たに通年雇用促進支援事業が創設され、国の委託事業の受け皿として8月22日に両町と関係団体及び網走支庁の10

機関で構成する美幌・津別地域季節労働者通年雇用促進支援協議会が設置されました。今後、この協議会が中心となり両地域の季節労働者の通年雇用化に向けた事業の取り組みを行っていききたい。

■北海道社会貢献賞の受賞

津別町字豊永、広岡壽幸様(民生委員・児童委員)が永年にわたり地域住民の福祉活動の向上に努められた功績により北海道社会貢献賞を受賞されました。

ご功績と栄えある受賞に対し、心から敬意と感謝を表します。

■パークゴルフ場利用状況



4月29日オープンしましたが、5月の低温、降雨の影響からか8月末現在の総利用人員は1万9千397人で前年比1千16人減となっています。

■夏のスポーツ合宿

夏のスポーツ合宿は、8月末で大半が終了し、サッカー、ラグビー、野球、バスケットボールなど21チーム、延べ5千158人で前年を14人上回りました。

合宿された皆さんが各種大会で活躍されることを祈念し、また、「津別町の応援団」になってくれることを期待しながら、これらを地域の活性化に繋げていきたい。

■温水プールの利用状況

本年度より利用料の改定を行い、5月1日のオープンから8月末日までの利用者総数は1万1千127人で、前年比158人増となっています。

今後も各種事業を展開し利用者増を図っていききたい。

■つべつふるさとまつり

去る9月9日・10日の両日、16回目を迎えた「ふるさとまつり」が開催されました。商工会会員、各種団体、サークル、実行委員会直営の店など42店が出店し、多くの町民を楽しませてくれました。

■安愚楽共済牧場の津別牧場における増設計画

現在、栄の安愚楽津別牧場で黒毛和牛の繁殖牛2千頭規模の畜舎及び堆肥舎の増設が行われていて、既に従業員の募集が進められており、津別

町から7人の雇用が確定し、今後も更に町内からの雇用に期待をしているところです。

■高齢者に対するお祝い

町から長寿のお祝いとして喜寿109人、米寿39人、白寿3人の方々に益々のご健勝を願いつつ記念品を贈呈しました。

満百歳を迎えた方1人には、記念品を贈呈しています。

◎その他報告された事項

- 寄附 ■図書券の寄贈
- 交通安全 ■第62回国体相撲競技北海道ブロック予選会
- 建設工事等の発注状況
- 農作物生育状況

第7回臨時会 (10月24日)

■日本フィルセミナー

日フィル交響楽団員によるセミナーが、9月28日から3日間行われ、アマチュア演奏家61人と管内の中・高校生55人が直接指導を受けました。最終日は、セミナー参加者と日本フィルメンパーによるコンサートが行われました。

■第6回紅葉マラソン大会

10月7日、町内外から238人が参加し、色づき始めた紅葉を眺めながら健脚を競い爽やかな汗を流していました。

◎その他報告された事項

- 船橋市との交流
- 津別町魅力発見ツアー



# 委員会活動

## 常任委員会 特別委員会

各常任委員会・特別委員会は議会の閉会中も委員会を開催し、所管事務について協議しています。

### 総務文教常任委員会

第5回（9月12日）

- ・ 指定管理者の指定について
- ・ 墓地条例の一部改正について
- ・ 学校教育施設整備基金条例の制定について
- ・ ツペットウンチャシ地形測量及び試掘調査事業について

### 産業福祉常任委員会

第5回（9月13日）

- ・ 地域バイオマス利活用交付金事業の取り組みについて
- ・ 民有林の購入について
- ・ 平成20年度以降の合併浄化槽整備事業について
- ・ 汚泥減量化試験について
- ・ 地籍数値情報化事業について
- ・ 町道の認定・廃止について
- ・ 下水道条例の一部改正について
- ・ 農業集落排水施設設置及び管理に関する条例の一部改正について

### 議会運営委員会

第8回（8月20日）

- ・ 選挙管理委員会委員及び補充員の選挙について

- ・ 各種委員の推薦について

第9回（9月21日）

- ・ 第6回定例会の運営について
- ・ 選挙管理委員会委員及び補充員の選挙について

- ・ 各種委員の推薦について

- ・ 意見書等の取り扱いについて

第10回（10月22日）

- ・ 第7回臨時会の運営について

### 決算審査特別委員会

第1回（9月27日）

- ・ 正副委員長の互選について

### 議会広報特別委員会

第10回（10月18日）

- ・ 議会報12号の編集について

## 北網ブロック町議会議員研修会



10月22日、大空町において議員研修会が開催され、近隣8町の議会議員が参加しました。研修会では、北海道町村議会議長会事務局長の勢旗了三氏を講師に迎え、「議会運営の諸課題と議会改革」と題し、近年の市町村合併や厳しい自治体財政の下、議員定数が大幅に削減されている中で、これからの議会に求められる活動や常任委員会、本会議等のあり方など、議会活性化について講演されました。



# 議会日誌

## 7月

24～25日 網走支庁管内総合開発期成会中央要望  
(東京)

31日 上川町議会行政視察来町

## 8月

7～9日 総務文教常任委員会道内行政視察  
(小平町、妹背牛町、当別町)

20日 議会運営委員会

28日 せたな町議会行政視察来町

## 9月

12日 総務文教常任委員会

13日 産業福祉常任委員会

21日 議会運営委員会

26～27日 第6回津別町議会定例会

27日 第1回決算審査特別委員会

## 10月

12日 議会運営委員会

12日 郡下町議会正副議長会議(美幌町)

18日 議会広報特別委員会

22日 北網ブロック議員研修会(大空町)

22日 議会運営委員会

24日 第7回津別町議会臨時会

# 意見書

関係行政庁へ  
提出しました

## 自治体財政の充実・強化を求める意見書

【要旨】 政府は歳出削減により自治体財政の圧縮を行い、住民生活に負担を求める改革を進めており、新型交付税の導入や地方財政計画の見直しなどによる地方財政の圧縮は、国の財政赤字を地方に負担転嫁するものです。

2008年度予算は「経済財政改革の基本方針2007」に沿って作成が開始されているが、より住民に身近なところで政策や税金の使途決定、住民の意向に沿った自治体運営が行なえるよう、2008年度予算における自治体財政の充実・強化をめざし、次の点を要請する。

記

1. 国と地方の税収割合5：5の実現に向け、更なる税源移譲と国庫補助負担金の改革を進め、特に自治体間財政力格差是正のため、地方税の充実強化を図ること。  
(以下、省略)

◆提出先 内閣総理大臣、総務大臣、財務大臣、  
経済財政政策担当大臣

## 20ヵ月齢以下のBSE(牛海綿状脳症)検査の継続に関する意見書

【要旨】 平成13年にわが国で初めてBSEが確認され、国産牛肉に対する安全・安心を確保する観点から全頭検査になった。その後、検査の月齢基準の見直しがされたが、消費者の不安・不信感が払拭されないため、検査補助により事実上全頭検査を行ってきた経過にある。

今回、厚生労働省が「平成20年7月末で月齢20ヵ月以下のBSE検査補助を打ち切る」との方針を決めたことに対し、安全を確保する観点から認めることはできず、下記事項について強く要望する。

記

1. 20ヵ月齢以下のBSE検査を行っている自治体への検査費用の補助を継続すること。また、全国の自治体への検査中止を求めた通知の撤回を行なうこと。
2. BSEの感染経路や感染源の究明と発症メカニズムの解明を急ぎ、消費者の不安を払拭すること。

◆提出先 内閣総理大臣、厚生労働大臣、農林水産大臣

# はぐるま

— 一歯車 —

津別中学校第4  
期制の同窓会が去  
る8月28日札幌定  
山溪のホテルで開  
催され、男性21人  
女性30人が出席し  
た。

今年6回目の  
誕生亥歳を迎え、  
参加者の頭は一段  
と白く薄くなった  
が、参加者は例年  
より多く、遠くは

東京、秋田、茨城からも集ま  
った。当時の中学校の1学年  
は3クラスで、1クラスが60  
人程度で教室はスシ詰め状態  
で今とは全く違っていた。す  
でに物故者も25人を超え、住  
居不明者も同程度いる中、担  
任の先生もすでに2人が亡く  
なられ、今回初めて恩師の出  
席は健康上から叶わなかった  
が、よく集まった。

宴会での話は尽きず、今後は  
「毎年やれ」の威勢のいい  
声の会場の支配で取り敢えず  
来年は北見市での開催が決ま  
った。

ふるさと津別の「ある場  
所」、「ある物」に多くの郷愁  
を抱いている方も多し中、津  
別での開催に即手を挙げられ  
なかったことがいま気に掛か  
っている。その時はパスでも  
貸し切って町内の由緒ある所  
を案内、見学させてあげては  
と・・・

(中右)